

平成30年度

学校評価

(最終まとめ)



千葉県立東葛飾高等学校 全日制の課程

平成30年度 学校評価結果 千葉県立東葛飾高等学校 全日制の課程 最終まとめ

領域	重点目標	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価 (開かれた学校づくり委員会からの意見)	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
学校経営	<p>1 地域、保護者等との連携の充実</p> <p>①PTA、開かれた学校づくり委員会の開催状況</p> <p>②学校HPの更新状況 (学校行事や外部連携の際にHPが更新されたかどうか)</p> <p>③学校評価アンケートの回収状況及びアンケート結果</p>	<p>①開催回数、時期は昨年度と変更はない。今年度も定時制の授業見学を行い、実態把握ができた。</p> <p>②学校行事や外部連携の際に、HP(校内生活)の更新(40回/2月24日現在)に努めてきた。学校評価では生徒は39%から47%に、保護者は62%から63%と昨年と比べアップ傾向にあった。(アクセス数196,038回/2月24日現在)</p> <p>③学校評価については、保護者の回収率が昨年度の73.9%から73.7%に微減であった。</p>	<p>①ここ数年は、PTA活動に対する保護者の意識は2極化の傾向は変わらず、働きかけを工夫し、広報活動を積極的に行っていく必要がある。</p> <p>②学校行事等をHP上で紹介したり、情報の提供を心がけてはいるが、マンネリ化や魅力不足といったところの指摘もあるので、工夫・改善していきたい。</p> <p>③保護者回収率は、学年が上がるにつれ回収率が下がっているため、担任からの積極的な働きかけや周知を行う。</p>	<p>①併設の中学校が3学年揃い、PTAとも更に連携を深め、中高ともに良い方向へ進んでほしい。</p> <p>②ホームページ(HP)については、良い取り組みをたくさんしているので、アピールや広報活動を積極的に行えるよう工夫してほしい。</p> <p>③保護者アンケートの回収率を向上させ、分析、まとめを学校運営に生かしてほしい。今後も実態に即したものにしてほしい。</p>	<p>①様々な立場の方から意見を聴取できるように開かれた学校づくり委員会を核として、PTA、同窓会、近隣の小中学校、地域団体等との連携を更に深める。</p> <p>②校内の取り組みや行事等を継続して掲載しているが、周知やアピール不足が見られるので、地域に認知してもらえよう、様々な機会での広報活動を積極的に行う。</p> <p>③生徒や保護者、教職員の実態に合わせたものとなるようアンケート項目については毎年検討していく。</p>
	<p>2 安全・安心な教育環境づくり</p> <p>④安全点検の実施状況及び改修状況</p> <p>⑤防災訓練等の実施状況</p>	<p>④机椅子の交換を今年度も行った。(新規)雨漏りについても順次改修がなされている。学校安全に関する生徒の肯定的な評価は前年度の56%から69%と上昇した。保護者からは75%から84%とアップし、改善が図れてきている。</p> <p>⑤避難訓練の実施以外に、講師を招聘し、全校生徒に防災意識を高める集会を実施できた。</p>	<p>④学校安全については、ハード面や意識面で更に高めていく努力をす。安全対策として貴重品の管理や空き教室の施錠を徹底することができた。改修については、計画的に進め、生徒が自主的に環境美化に努めるように働きかける。</p> <p>⑤防災教育等について、来年度も講師を招いた集会を計画し、主体的に考える機会を継続的につくりたい。</p>	<p>④施設面はやはり中学校に比べ、高校は劣っているので、対応が必要。予算的な面があるが、県などに積極的に依頼してはどうか。</p> <p>⑤日頃からの防災や防犯に対する意識が大切なので、生徒が自らが企画・運営する防災安全事業をこれからも継続してほしい。</p>	<p>④今後も緊急性や優先順位を確認し、計画的に改修を行う。また、安全点検を年3回実施し、学校生活が安全に送れるよう継続していく。防犯対策については、引く続き生徒の意識改革や施錠の徹底を図る。</p> <p>⑤防災安全事業を継続させると共に、生徒が主体的に取り組めるように働きかける。併設中学校や定時制と連携した防災安全組織を機能させ、様々な対応ができるように連携を図っていく。</p>

領域	重点目標	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価 (開かれた学校づくり委員会からの意見)	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
学習指導	1 中高一貫教育重点校として生徒の高いレベルの学力育成 ①授業公開の実施状況、校内研究授業・研修会の実施状況	①互見授業を各教科で行ったり、研究授業を通して指導力向上を目指した。また、県や市教育委員会の視察、医歯薬コースの視察、他県からの視察等を積極的に受け入れた。進路指導についても他校の実践を例にあげ研修に努めた。	①授業力の向上に向け、更に互見授業の充実に努める。魅力的で工夫された授業を展開している教員も多く、優れた授業の様子を撮影し、残すことが今年度少なかったので積極的に行う。若手研修チームを活用し、更に指導力向上に努める。	①授業の内容は教師と生徒の一体感・向上心が見受けられる。いつ、どのクラスを観ても、授業に対する真剣な姿には感心させられる。教師の創意工夫が感じられる。	①今後も3年間を見通した進路計画の精選を図り、1・2年生から見通しが持てるよう構築をしていく。特に、組織的な取り組みを通して補習等を各教科で企画していく。必要に応じて個別支援を行い、学習・進路に向う意識向上を目指す。
	2 教員相互の錬磨による授業力の向上 ②生徒・保護者による授業評価アンケートの結果及び職員相互の授業評価	②適切な評価がなされていると回答している生徒が90%、保護者が88%と回答しており、毎年高い評価を得ている。職員も79%が指導と評価の一体化が図られていると回答している。	②学習面については、油断することなく日々研修や工夫し、高い評価が維持できるよう努力する。学力の向上についての項目で生徒の評価が一昨年度58%から64%、70%と向上しているため、更に上を目指す。	②大学入試が変わることへの対応について、学校としてどのように考え、実践していくか、計画的に進めてほしい。中高一貫教育校として、生徒・保護者・教員の意識に温度差が生じないように、今後も期待している。	②中高、高大接続を意識した取り組みや新学習指導要領への移行がスムーズにできるよう更に検討を重ねていく。アンケート等の意見を参考に指導力向上を目指す。
生徒指導	1 変化に対応できる逞しく規律ある生徒の育成 ①出欠状況、安全指導・登校指導の実施状況、清掃活動の状況 ②道徳授業の実施状況 ③学校評価アンケート結果 ④生徒・保護者面談の実施状況、スクールカウンセラーの活用状況	①昨年度、遅刻生徒を減らすことと校内の美化が課題であった。反省を踏まえ、校内の美化意識は肯定的な意見が一昨年度の23%から41%、52%とアップした。遅刻に対しても全校体制で意識化に取り組み、成果が見られた。 ②道徳については、昨年並みの実施状況で、LHR以外でも積極的に取り組んでいる。 ③生徒はルールやマナーが守られていると回答している割合が83%から88%と更に伸びた。 ④生徒が先生に相談できると回答した割合は77%から85%に増加しており、教師と生徒の信頼関係の構築に努力してきた成果ともいえる。いじめアンケートについては、6月と11月の年2回実施し、生徒理解に努めた。	①遅刻については、今年度、学校としての取り組みを実施し、成果が見られてきたので、職員間の共通理解を更に深め、指導の定着、生徒の時間等に関する意識を一層高めていく。 ②生徒の主体的活動を意識した道徳の授業実践を更に目指し、より良い教材や資料をさがし共有し合う。 ③年々、生徒個々のルール・マナーの意識は高くなりつつあるが、やはり集団としては欠ける部分もあるので、生徒組織に働きかけ、意識を高めるようにする。 ④アンケート結果からもわかるように生徒との信頼関係については良好な状態を保っている。更に生徒が主体的に相談できるように様々な形態を模索する。また、積極的にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーにつなげるなど勤務形態を周知に努める。	①基本的な生活習慣の挨拶については、もう少しのような気がする。小中学校では積極的にできていたり、いわれていたと思うのだが。 ②スマホなどの情報モラルに対する生徒への指導は更に進めてほしい。 ③東葛に入学して(させて)良かったと思っている割合が更に高まっていることは大変素晴らしい。あこがれの「東葛」の益々の興隆に期待している。 ④相談体制を更に整え、一人一人に向き合い心の通い合う教育をしてほしい。3年間で培われる人間関係を通して、次へのステップへと進んでほしい。	①遅刻については、職員間の共通理解を深め、統一した指導を通して成果が上げられた。更に生徒の意識を高めていけるよう継続的に取り組む。 ②情報モラルに関することについては、指導を定期的に行い、必要に応じて個別の指導も行う。 ③本校の校風や自主自律の校是など、満足度はここ数年安定しているが、自分本位や受け身の生徒も増えているので、自治能力を更に育成していけるようにする。 ④実態を把握するために生活アンケートや学校評価アンケートを活用し、SSW・SCを巻き込んだ支援組織を展開する。生徒にいじめ・セクハラ防止対策委員会の存在を周知し、有効に機能させるよう努力する。

領域	重点目標	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価 (開かれた学校づくり委員会からの意見)	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
キャリア教育	1 キャリア教育の充実及び進路実現への対応 ①インターンシップ事業の実施状況 ②進路のしおり、進路だよりの発行状況 ③大学訪問、講演会の実施状況	①今年度は、10事業所36名が参加した。昨年度(31名)よりわずかに微増。 ②進路情報は昨年同様の発行状況であり、昨年69%→78%の生徒が肯定的に評価している。 ③大学見学は、3年生にとって実施時期が具体的な進路がある程度決定しているため評価が低くなりがちである。進学実績や数値目標が達成されたか検討を行う。	①2年生でインターンシップを実施しているが、減少傾向にあるので参加を積極的に働きかける。 ②肯定的な割合を80%以上に高める。進路のしおりやたよりなど適切な進路情報を提供する。 ③進路の日の企画をさらに充実させ、向上心を高められるように更に努める。数値目標が達成されたかを確認し、検討していく。各学年に応じた受験に向けた企画や内容を工夫し、入試改革に備える。	①②③大学入試制度変わる中、進路実績や1・2年から意識して取り組めるよう、計画的に進めてほしい。 ①この分野においても、良い取り組みをたくさんしているので、もっと積極的にアピールしていったら良いと感じる。 ③保護者の期待なども高くなってきている中、生徒たちの希望や期待に真摯に向き合って実績をあげてほしい。	①②③「計画的な進路指導及び適切な進路情報の提供」の項目で保護者で72%から74%と上昇しており、今後変わりゆく進学指導についての期待も膨らんでいる。今後も生徒の実態やニーズに応じた進路指導を進めていく。 ①今後もキャリア教育に繋がるリベラルアーツ講座を開設し積極的に活用させる。 ③毎年行っている進路の日や卒業生によるパネルディスカッション等、様々な機会を提供し、将来の進路選択や職業選択に生かせるように継続していく。
特色ある教育活動	1 グローバル社会に対応する幅広い教養教育の充実 ①「東葛リベラルアーツ講座」の実施状況及び参加状況 2 医歯薬コース並びに併設中学校の円滑な運営 ②医歯薬コースの開講講座と生徒の参加状況及び進学実績 ③中学生の高校行事及びリベラルアーツ講座への参加状況	①今年度は、33講座を実施した。リベラルアーツ講座に積極的に参加している割合が44%→47%と微増ではあるが、学年が進むにつれの参加率が低く、新規開拓やアピールをしていきたい。 ②医歯薬関係の講座は1・2年で18講座を実施し、5年目を迎え、系統立てて構築されつつある。 ③中学校との交流する機会を年々広げている。講座や行事、授業など参加できるものを増やしたい。	①新規の講座やマンネリ化を解消し、参加率が高まるように内容等を工夫する。保護者はリベラルアーツ講座を好意的にとらえ、85%が肯定的である。 ②医歯薬コースの教育課程を更に工夫し、様々な医療機関・大学等と連携が図れるようにする。 ③中学校との交流の場を学校行事や集会等、様々な機会を利用して増やしていく。中学生と高校生が連携できる講座を精選し更に増やす。	①リベラルアーツ講座で、外部からの刺激を受けることはたいへん意味があること。今後も多様な講座を展開してほしい。 ②来年度、併設中学校から進学してくる生徒たちと外進生との中で、学校に変化が見られるのか、互いにとって良い刺激となって、発展していくことを楽しみに見守っていきたい。 ③内進生の進学を受け、中学校と高校と交流を更に進めて、生徒間や保護者間の温度差を狭められるように努力してほしい。	①「東葛リベラルアーツ講座」については、なかなか新規の講座の開拓や生徒自らが企画する講座が見いだせなかった。更に努力し、参加しやすい環境を整える。 ②「医歯薬コース」については、3年間のプログラムの構築が定着しつつある。柏市医師会のバックアップのもと、医療系大学との連携を更に模索していく。3年間の見通しや志の高い生徒の育成ができたか、など検討分析をしていく。 ③来年度、内進生が上がってくるので、更に中高の交流活動を増やしていけるよう、中高の生徒間での調整や話し合いを通して確立していく。

